

愚痴のやりとりにおける「それな」の特徴 —大学生の会話に着目して—

釜田 友里江¹

要 旨

本研究は、大学生の会話にみられる「それな」の表現に着目する。「それな」は、「相手の指摘に同感することをあらわすことば。そうだね」『三省堂国語辞典第八版』（2022：860）と記述されている。しかし、実際の会話では、単に同意を示す際に使用しているだけではないように聞こえる。そこで本研究は、「それな」という表現によって反応を示している発話に着目し、会話分析の手法を用いて「それな」の特徴を明らかにする。

会話データを分析した結果、主に2つの特徴がみられた。1つ目は「それな」の直前の発話に関することである。これまでの研究では「それな」の直前の発話について、相手の指摘（『三省堂国語辞典第八版』）やポジティブ・ネガティブ・どちらでもない内容（宍戸 2014）という分類が行われてきた。本研究では、さらに細かく直前の発話を観察したところ、評価、心境、経験などが確認された。2つ目は、愚痴のやりとりにおいて「それな」という反応に、相手の経験を認めるような働きがあることがわかった。

キーワード：「それな」、経験、承認、愚痴、大学生の会話、会話分析

¹ 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科講師。

1. はじめに

本研究は、会話の中で聞き手が「それな」という表現によって反応を示している場面を取り上げる。近年、若者の会話で「それな」という表現を頻繁に耳にするようになった。一見、相槌のようにどのような事柄にも使用可能に聞こえるが、会話に耳を傾けると使い分けがあるように聞こえる。そこで本研究は聞き手が「それな」という表現で反応を示す際に、どのような特徴があるのかを明らかにする。まずは、どのような発話の後に「それな」という反応がくるのかを観察する。次に「それな」という表現で反応を示すことで、どのようなことを会話相手に働きかけているのかを分析する。

2. 「それな」に関する先行研究

ここでは、まず「それな」がどのような意味で捉えられているのかを確認する。次にやりとりの中でみられる「それな」に注目している研究について概観する。

相手の指摘^{してき}に同感することをあらわすことば。そうだよね。

『あれけっこういいね』『ー』

『三省堂国語辞典第八版』（2022：860）

辞書の記述によると、相手の指摘に同感したことを示すという意味である。例文をみると、「けっこういいね」という話し手の発話には、①同意を求めている、②指摘をしているという2つの可能性がある。しかし、同意を求めることと指摘をするという行為は、同じ行為ではない。なぜなら、同意を求める場合、話し手と同じ考えであることが聞き手に期待される。一方の指摘について『三省堂国語辞典第八版』（2022：638）によれば、指摘とは「取り出して、問題点をはっきりしめすこと。『弱点を一する』」である。日常会話において、問題点を指摘する場合もあれば、相手が気づいていないことを知らせるような場合もある。したがっ

て、聞き手が気づいていない事柄を知らせるという意味も含むため、指摘をした時点で同じ考えであることが期待されるというわけではない。上記の点から、以下の整理が必要である。

1. 「それな」の直前にくる発話を細かく分析する。

2. 期待される反応を分析する。

（「それな」の直前の発話を分析することでどのような反応が期待されているのかを観察することができる）

『日本経済新聞』（2019年10月15日）によると、学校などでの会話に含まれる「それな」は同意を示すという。以下の例文を提示している。

「あしたの授業、まじ行きたくない」

「それな（そうだよね）」

『日本経済新聞』においても『三省堂国語辞典第八版』と同様、「それな」は「そうだよね」の意味で捉えられている。上記の例文の「あしたの授業、まじ行きたくない」という発話を取り上げると『三省堂国語辞典第八版』が示していた「指摘」とはニュアンスが異なる。なぜなら、相手が気づいていないことを知らせるような発話ではない。また、強く同意を求めているようにもみえない。以上のことから、上記の1と2の分析が必要となる。また「それな」の意味についても同感（『三省堂国語辞典第八版』）と同意（『日本経済新聞』）では、異なる。例えば、相手の経験などに共感する場合と、評価（良いなど）に同じ評価を示す場合などである。

次にやりとりにみられる「それな」に着目している研究を概観する。

宍戸（2014）は、2014年に大阪（211名）と東京（138名）に通う大学生を対象に「それな」の認識について、アンケート調査を行っている。具体的には、日

常会話やメール・LINE においてどのようなことばで相手に同意するかを調査している。調査の結果、「それな」の使用頻度は、関東の使用が関西を上回ると指摘している。関東では「それな」単体での使用が多く、関西では「ほんま」という強調語が伴うかたちでの使用が多いと述べている。また、宍戸（2014）は、「それな」の前にくる発話の内容を3つに分類している。

(1) 否定的な内容

A「今日出た課題、明日提出ってだるすぎ」 B「それな！」

(2) 肯定的な内容

A「ディズニーランド行きたいーい！」 B「それな！」

(3) どちらでもない内容

A「今すれ違った人、明らかにヅラだったね。」 B「それな！」

内容を3つに分類して調査した結果を宍戸（2014）は以下のように説明している。関東・関西とも（1）のネガティブな内容における使用が多く、関東の場合、（2）・（3）ではあまり違いがみられず、関西は（1）→（2）→（3）という使用頻度であった。以上の結果から、関東では関西ほど話の内容によって使用状況が左右されることがなく、肯定的・否定的な内容であれ、相手の発言に対して自分の強い同意の気持ちを表す手段として広く「それな」が使用されていることを示唆している。

堀尾（2022）は、テレビドラマ「家族のLINEがしんどいw」（SNSのLINE）を分析している。

父：今日、何か買ってくるものある？

姉：アイス！

母：アイス

息子：それな

「そうなんですね」と相手の意見などを尊重する、というよりは使用者がより主体的に「そうだ」と思うときに使用していると堀尾（2022）は述べている。

これまでの研究では、同感（『三省堂国語辞典第八版』）、強い同意（宍戸 2014）・同意（『日本経済新聞』）などが特徴として挙げられていた。堀尾（2022）では、同意求めに対する同意などとは異なり、主体的に使用者が「そうだ」と思う際の使用を指摘している。したがって、相手の指摘や同意求めに対する反応というよりは、相槌に近い反応といえるのではないか。

ここまで概観した先行研究をまとめると以下ようになる。

表 1 先行研究における「それな」の意味

	話し手	聞き手
宍戸（2014）	ポ・ネ・どちらでもない 内容	自分の <u>強い同意</u> の気持ちを 表す
日本経済新聞 （2019.10.15）		<u>同意</u> を示す そうだよね
堀尾（2022）	主体的に使用者が「 <u>そうだ</u> 」と思う	
『三省堂国語辞典第八版』 （2022）	指摘する	<u>同感</u> する そうだよね

まず、表 1 の「話し手」の発話を取り上げる。「それな」の直前に着目し、話し手の発話を想定しているのは『三省堂国語辞典第八版』と宍戸（2014）である。

ネガティブな内容（宍戸 2014）といっても、話し手の失敗談や話し手だけでなく聞き手にもかかわる辛い出来事などの場合もある。誰にとっての、どのような事柄かで聞き手の反応は大きく変わる。そのため、直前の発話を細かく観察する必要がある。一方、『三省堂国語辞典第八版』は指摘するという行為を挙げている。指摘といっても、気づいていないことを知らせるためと、問題点などを取り上げるためでは、聞き手に期待する反応は大きく異なる。

次に「聞き手」の発話に焦点を当てる。『三省堂国語辞典第八版』と『日本経済新聞』（2019 年 10 月 15 日）は「そうだよね」と同じ意味で捉えている。宍戸（2014）は、自分の強い同意の気持ちとしている。強い同意の気持ちを示す際に「そうだよね」との言い換えは可能なのか。「それな」を使用する場合、使用者は「そうだよね」と使い分けているのだろうか。

3. 本研究の位置づけ

先行研究を踏まえて本研究では、以下の「どのような?」「どのように?」の部分进行明らかにする。

表 2 本研究の位置づけ

直前の発話	それな	直後の発話
ポジティブ・ネガティブ・どちらでもない内容 （宍戸 2014） 指摘 （『三省堂国語辞典第八版』） どのような？	「そうだよね」 同感する『三省堂国語辞典第八版』 同意・強い同意 （宍戸 2014）日本経済新聞（2019.10.15） 主体的に使用者が「そうだ」と思う （堀尾 2022） どのように？	どのような？

まず「それな」の直前の発話に注目する。これまでの研究では、直前の発話についてポジティブ・ネガティブ・どちらでもない内容（宍戸 2014）や指摘（『三

省堂国語辞典第八版』) であることが報告されている。しかし、ポジティブ・ネガティブな内容は、誰のどのような経験・事柄かによって聞き手の反応も大きく異なる。また、指摘には相手の非難に繋がるようなこともあれば、相手が気づいていないことを知らせるような場合もある。以上のことを踏まえると「それな」の直前の発話を細かく観察し、どのような反応が期待されているかを分析する必要がある。そうすることで、聞き手に求めている反応を捉えることができる。次に「それな」がどのようなタイミングで出現するのかに焦点を当てる。「そうだよね」と同様の意味であることが指摘されてきたが、使用話者は「そうだよね」と「それな」を使い分けているのかも確認する。最後に「それな」の直後に注目する。「それな」の出現後のやりとりを分析することにより、「それな」を用いることでどのような働きかけをしているのかを追究する。

4. データの概要

本研究では、大学生同士の会話データを分析対象とする。大学1年生の二者間の自由会話（15分）である。新型コロナウイルス感染を避けるため、Zoomで会話調査を実施した。調査者は、15分後にZoom画面に戻ることを伝え、退室したことが会話参加者たちにも視覚的にわかるようにその場を退室した。44ペアの会話を収録（録音・録画）し、収録後、データの文字起こしを西阪（2008）にしたがって行った。以下が調査に関する詳細である。

表3 調査の概要

収録時期	二者間の関係性	収録数
2020年8月	知人	22ペア
2021年6～7月	知人	22ペア

調査は、2020年8月（22ペア）と2021年6～7月（22ペア）に実施した。調

査参加者同士の関係性は知人である。同じ大学に所属する学部1年生を対象とした。

5. 分析方法

会話分析の手法を用いて分析を行う。会話分析が目指しているのは、会話参加者自身が用いている手続きを厳密に記述することである（高木・細井・森田 2016）。発話の「position」（位置）と「composition」（組み立て）に焦点を当て、行為を厳密に記述する（Schegloff, 1993）。「それな」という表現を用いて反応を示すことで、どのようなことを相手に働きかけているのかをみていく。

6. 結果と考察

会話データを分析した結果と考察を述べる。まず「それな」の直前の発話の特徴に焦点を当てる。次に「それな」によって反応を示している発話を取り上げる。

6. 1 「それな」の直前の発話

会話データを分析した結果、「それな」の出現は2020年のデータでは18回、2021年のデータにおいては15回みられた。直前の発話には以下のような発話が観察された。

表4 「それな」の直前発話

「それな」の直前	2020 年	2021 年
評価	6	5
心境	5	1
経験	3	2
確認	3	2
事実	0	2
その他	1	3
合計	18	15

「それな」の直前の発話について、評価（11 回）を述べている発話が観察された。評価は、アーティストについて「かわいい」などと述べている発話である。心境（6 回）は、新型コロナウイルス感染防止のため、アイドルのコンサートの中止が続いていることから、アイドルに「早く会いたい」などと述べている。経験（5 回）は、アルバイト先での出来事などを語っている。確認（5 回）は、新型コロナウイルスが収束しない場合、このまま大学に行かないで大学生活が終わる可能性について確かめている。事実（2 回）については、スマホゲームのルールなどを説明している。その他（4 回）は、選択肢の提示や飲食店の名前が正しくないことを伝えている発話などである。

本研究では、会話相手の経験に対して「それな」と反応を示している場面に着目する。知識は教えればわかるが、経験は経験していない者にはわからない（串田 2001）。また、経験は経験した当事者に固有なものである（Sacks, 1970）。そのため、会話相手の経験を固有の経験として認めるような反応が聞き手には期待される。黒嶋（2013）は、2011 年の東日本大震災によって避難生活を余儀なくされた人と足湯ボランティアの人のとの会話に着目している。ボランティアの人は、

避難生活を余儀なくされた人の語りの内容について固有性を認め、自分たちは、そのような経験を持たない者という立場を取り、「非当事者」であることを認めていると指摘している。

以上のことを踏まえると、会話相手の経験に対して慎重に反応を示すことが求められる。会話相手の経験に「そうだよね」と反応することは、会話相手の固有の経験を認める際に十分な反応といえるのか。

また、経験といってもポジティブな経験・ネガティブな経験など様々である。本研究はネガティブな経験の1つである愚痴のやりとりを焦点を当てる。社会的な規範から、愚痴は相手に不快感を与える可能性があるため、積極的に語ることが望ましい語りとはいえない。しかし、それでもわたしたちは、日常生活の中で語ってしまう。その要因として、愚痴を語ることと関係構築が密接に結びついていることが挙げられる。岡田（2004）は、愚痴のやりとりにおいて、不快と感ずることもあるが、語り手に対して聞き手が「親密さ」を感じると指摘している。伊丹・大蔵（2014）は、語り手も聞き手も愚痴に対して否定的な感情を抱きながらも「大切」「必要」と感じていると述べている。

本研究では愚痴のやりとりにおいて「それな」と反応を示している会話に着目する。

今回は2つの事例を取り上げる。

事例1 住んでいる寮が同じ、アルバイト仲間 （2020年収録）

事例2 クラスメイト （2021年収録）

6. 2 相手の経験を認める「それな」

AとBは、アルバイト（飲食系）の話をしている。アルバイト先のメンバーについて、確認している場面である。

[事例 1] 女性 A と女性 B による自由会話

- 1 B: あ: また: ○○さんと (.) □□□くんだけ
2 (.)
3 B: おな [じみメンバー
4 A: [また?
5 B: ha ha [.hh
6 A: [や: □□□くん >でとか< もう [知らんよ
7 B: [ん
8 B: あ そっか 見たことないんか.
9 (0.4)
10 A: <会ったかな:>
11 (0.9)
12 B: すごい すごい かぶる この-このか [たたち
13 A: [ね なんかさ:
14 人の名前も覚えなきゃいけないし:
15 B: う: [ん
16 A: [やることも覚えなきゃいけないし:
17 B: ↑ そうなんだよ[:
18 A: [で 最近やばい (.) ¥h[h¥
19 B: [↑ hh
20 A: [頭がおいつかん
21 B: [¥hh¥
→22 B: そ↑れ↑な
23 やほんとに (.) えランチもなんかやばいしな あたし
24 (0.2)
25 B: わかってないし まだ=

26 A: =↑ランチは でも: <結構:>

27 B: うん

28 A: やるようになったけど: [でも△△△さんがいると:

29 B: [あ:そっか

30 A: 緊張[して:

31 B: [うん

32 (.)

33 A: ミスる

B が次に同じ時間帯にアルバイトに入るメンバーの名前を伝える (1 行目) と、A はそのうちの 1 人は知らない (6 行目) という反応を示している。その後、A はアルバイト先で覚えなければならないことをリストアップすることで、愚痴を開始している。具体的には①人の名前 (13-14 行目)、②やること (16 行目) を覚えることである。アルバイト先で覚えることについて、B は「↑そうなんだよ:」と同意を示している (17 行目)。A は「で最近やばい」と最近、大変な状況で頭がおいつかない (20 行目) と愚痴を語る。B は「そ↑れ↑な」と A の大変な状況を認めるような反応を示す (22 行目)。ここで、B が反応を示す際の表現形式に着目したい。A がアルバイト先で覚えなければならないことのリストを示した際の B の同意は「↑そうなんだよ:」という表現形式であった (17 行目)。しかし、18、20 行目で A が最近の大変な状況を語った際には「そ↑れ↑な」という表現を用いている。「頭がおいつかん」(20 行目) という A の愚痴に「↑そうなんだよ:」と反応を示した場合、B にも容易に理解できる経験として受け止めた反応になる。したがって、業務内容を遂行するために必要なことのリストアップと、大変な状況に置かれている A の固有の経験では、期待される反応も異なる。B は期待される反応に合わせて、A の経験に理解を示す際に「そ↑れ↑な」を使用しているのではないかな。

そして、BはAが使用していた「やばい」という表現を用いて「ランチもなんかやばいしな あたし」(23 行目)、「わかってないし まだ」(25 行目)と自分のアルバイト先での経験も含めて説明することで、Aの状況が理解できる理由を具体的に説明している。ランチでの業務も遂行できていない「あたし」と敢えてBの経験も持ち出すことでAの経験を承認できる証拠の提示となっている。

次の事例2においても、相手の経験を認めるような反応を示す際に「それな」が観察された。また「それな」によって反応を示した者が、具体的な説明を行う点も共通している。

事例2の直前で、最近、暑くなってきたため、夏服の購入を考えているが、良い店がわからず、色々な店に行っているとCが述べている。

【事例2】 女性Cと女性Dによる自由会話

- 1 C: 結局¥なんか¥自分の気に入ったものがなくてなんか: ,
- 2 C: そう
- 3 (1.1)
- 4 D: や わかる
- 5 (0.3)
- 6 D: 結局ね?
- 7 (.)
- 8 D: [買わないで帰るんだよね .
- 9 C: [うん
- 10 C: <そう>=
- 11 D: =¥見るだけ見て¥ .hh
- 12 (.)

- 13 C: でな [んか: 自分 [いつも服買うときにさ:,
 14 D: [↑え: [うん
 15 C: 試着絶対すんのね,
 16 (0.7)
 17 D: うんうんわかるわかる
 18 C: もう試着: しないと買わないから: なんか その: .hh
 19 ネット↑ショッピングならいっぱいあるんだけどさ: でも
 20 試着で [きないからさ: サイズ感でミスったら
 21 D: [あ:::
 22 C: ちょっとやだ¥な hh って思っ [て¥
 23 D: [や:
 24 D: <わかります> (0.2) <めっちゃわかります>
 25 C: なんかね (h): >hh hh hh h[h<
 26 D: [う:ん
 27 D: わたしも GU とか行ったとき めっちゃ 試着するもん
 28 ¥hh [hh ° .hh° ¥
 →29 C: [それ↓な
 30 D: ね.
 31 C: 何着まで: なら試着室オッケーですみたいなのあるじゃん.
 32 D: あ: あるね.
 33 (.)
 34 D: 最近ね.
 35 (0.2)
 36 C: だ もう 多すぎてさ: もう全部まとめて
 37 試着したいぐらいなだけで ¥ど >hh hh< ¥
 38 D: う:ん

C は、自分の気に入ったものがない、つまり自分が良いと思う夏服が購入できないと愚痴を開始している（1 行目）。この C の状況に D は「わかる」（4 行目）と理解を示し、結局買わないで帰ると自分の経験も語っている（6、8 行目）。平本（2011）は、「わかる」について、以下のように指摘している。「わかる」という理解の主張後に、聞き手側の語りを接続することは、単に理解を主張するだけではなく、理解の立証の試みになっている。D の発話も同様のことがいえる。「わかる」（4 行目）という反応後に C の愚痴が理解できる証拠の提示を自らの経験から示している（6、8 行目）。

その後、C は服を購入する際は必ず試着をすると説明し（13、15 行目）、D は「うんうんわかるわかる」と C に理解を示している（17 行目）。そして C は、ネットショッピングなどは試着ができないため、サイズでミスをしたら嫌だと服を買うときの C のこだわりを具体的に説明する（18-20、22 行目）。この C のこだわりは、愚痴（自分が良いと思う夏服が購入できない）を語ることの正当な理由として組み立てられていることが観察可能である。C のこだわりに対して D は「<わかります> (0.2) <めっちゃわかります>」（24 行目）と 17 行目の「わかる」のときもよりもゆっくとまた「めっちゃ」と程度も高めて理解を主張している。その後、D は「GU」と具体的な店名も挙げて自分も試着をすると似た経験を語り、C の愚痴に共感的な反応を示している（27 行目）。購入の際にサイズ感でミスをすることを避けるために試着を必ず行うという C のこだわりに対して D は 1 店舗での試着回数（めっちゃ）に焦点を当てていることが「めっちゃ試着するもん」（27 行目）という音の強さからもわかる。この D の共感的な反応に対して、C は「それ↓な」と反応を示す（29 行目）。この C の反応は、D の経験に理解を示すと同時に D の共感的な反応を認めるような働きがあるのではないかと。つまり、C の愚痴に対して D が示した共感的な反応に承認を与えている。ここで C の言語形式に着目したい。理解の立証を試みた（4、6、8 行目）D に対して C は「<そう>」（10 行目）と同意を示していた。しかし、D が似た経験を語り、共感的

な反応を示した際には「それ↓な」と反応を示している（29 行目）。事例 1 と同様、会話相手の経験を認めるような場合に「それな」の使用がみられる。GU に行ったときにめっちゃ試着をするという D の経験（27 行目）に対して「そう」と反応を示した場合、まさにわたしが言いたかったこと、わたしにもそのような経験があるというふうにも聞こえてしまう。つまり、ありふれた経験としての受け止めになる可能性も高い。したがって「それな」は、「相手の経験＋共感的な反応」を承認するような働きがあることが示唆された。

C は承認できる理由を D が提示した試着の回数に関連させて、1 回で試着可能な数（試着数の制限）の観点から具体的に説明している（31、36-37 行目）。この説明は、なぜ D の経験・共感的な反応を認めることができるかについての証拠の提示にもなっている。

7. まとめ

ここまでの分析結果と考察を以下の表 5 にまとめる。

表 5 本研究のデータからみられた「それな」の特徴

直前発話	それな	直後の発話
評価	<本研究のデータ>	・「それな」によつて反応を示した者
心境	・相手の経験を認めるため	→理由説明
経験	・「そうなんだよ」「そう」と「それな」の使い分け	具体的に自らの経験を語りながら相手の経験を認めることができる理由を説明する
確認		
事実	事例 1 B「↑そうなんだよ:」（17 行目） → B「 <u>そ↑れ↑な</u> 」（22 行目）	
その他	事例 2 C「<そう>」（10 行目） → C「それ↓な」（29 行目）	

まず、直前の発話について、これまでの研究では指摘（『三省堂国語辞典第八版』）やポジティブ・ネガティブ・どちらでもない内容（宍戸 2014）に対する「それな」の特徴が示されてきた。会話において、相手の非難に繋がるような指摘もあれば、相手が気づいていないことを知らせるような指摘もあるため、本研究では「それな」の直前の発話をさらに細かく観察した。その結果、評価・心境・経験・確認・事実・その他の発話がみられた。そこで、本研究は経験に焦点を当て、その中でもネガティブな「経験」である愚痴のやりとりを取り上げた。その理由は、愚痴は会話相手に不快感を与える可能性があり、積極的に語ることが望ましくないとされる一方で、「親密さ」（岡田 2004）や「大切」（伊丹・大蔵 2014）と感じる語りであることが報告されているからである。

本研究で取り上げた 2 つの事例について、先行研究とは異なる 2 点が観察された。1 つ目は「それな」という表現を用いた行為についてである。事例 1 では、相手の経験を認める際に「それな」がみられた。事例 2 では、「相手の経験＋共感的な反応」を認める際に「それな」が観察された。『三省堂国語辞典第八版』では、指摘に同感することばとして「それな」の説明が行われている。問題点をはっきり示したり（『三省堂国語辞典第八版』）、相手が気づいていないことを知らせたりする指摘に対する同感と相手の経験に対する承認とでは、相手に働きかけている行為が異なる。2 つ目は言語形式である。事例 1 と事例 2 において「それな」の使い分けが示唆された。事例 1 では、A はアルバイト先で覚えなければならないことをリストアップした際に B が「↑そうなんだよ：」（17 行目）と同意を示していた。しかし、A が最近の大変な状況を語った際には「そ↑れ↑な」（22 行目）と A の経験を認めている。A の最近の大変な状況に対して B が「↑そうなんだよ：」と反応を示した場合、A の経験は B にも容易に理解できることとして受け止めた反応になる。相手の経験の固有性を認める際に「それな」が用いられているのではないか。事例 2 では、C が D の理解の立証に対して「<そう>」（10 行目）と同意を示していた。その後、D が C と似た経験を語ることで

Cに共感的な反応を示した際には、Cは「それな」（29行目）と言ってDの共感的な反応と経験を承認している。Dが似た経験を語り、共感的な反応を示した際に「<そう>」と反応をした場合、そのことはわたしが言いたかったことであり、ありふれた経験として受け止めたことになる可能性もある。以上のように、事例1のBも事例2のCも、どのようなときにも「それな」を用いて反応を示しているのではないことがわかった。

最後に「それな」の直後の発話の特徴を論じる。「それな」によって相手の経験を認めた後に、なぜ相手の経験を認めることができるのかについての理由説明が「それな」の使用者によって行われる。具体的に自らの経験を語ることで、単に反応を示したのではなく、相手の経験を認めることができる十分な証拠があるという提示になっている。「それな」によって相手の経験を認め、その後、なぜ相手の経験が承認できるかという説明を行う際に自らの経験を持ち出していた。このような方法によって、以下のように相手の経験も認めつつ、自らの経験についても独立性を維持しているのではないか。

相手の経験 → それな → 自分の経験

8. 今後の課題

今回は愚痴のやりとりでみられる「それな」に着目した。「そうなんだよ」、「そう」と「それな」の使い分けについて示唆されたが、「そうだよね」（『三省堂国語辞典第八版』（2022：860）、『日本経済新聞』（2019年10月15日）との使い分けがみられるのか、今後、掘り下げて分析を行う。

トランスクリプションの記号一覧

記号	意味
[発話の重なるの開始
]	発話の重なるの終了
:	直前の音の引き延ばしとその長さ
<u>下線</u>	音の強さ
(言葉)	聞き取りが確定できない
(())	発言の要約やその他の注記
(数字)	沈黙の長さ
(.)	0.2 秒以下の短い間合い
hh	呼気音とその長さ
.hh	吸気音とその長さ
¥ ¥	発話が笑い声でなされている
↑	音調の極端な上がり
< >	発話のスピードが目立って遅い
> <	発話のスピードが目立って速い
° °	音が小さい
=	2 つの発話が途切れなく密着している
?	語尾の音調が上がっている
.	語尾の音下がって区切りがついた
-	言葉が不完全なまま途切れている
アルファベット表記 (「r」「n」など)	完全に「る」にはなっていないときは「r」、「うん」にはなっていない場合は「n」のように表記する
→矢印	本研究で注目する発話

参考文献

伊丹美紀・大蔵雅夫 (2014). 「愚痴のイメージと心理的影響」『徳島文理大学研究紀要』(88), 93-101.

岡田卓也 (2004). 「愚痴に関する一考察—その精神力動と関係性—」『臨床心理学研究』(2), 47-63.

串田秀也 (2001). 「私は—私は連鎖—経験の「分かちあい」と共—成員性の可視化—」『社会学評論』52(2), 214-232.

黒嶋智美 (2013). 「第 8 章 経験の固有性を認める共感」西阪仰・早野薫・須永将史・黒嶋智美・岩田夏穂 (編)『共感の技法—福島県における足湯ボランティアの会話分析』勁草書房, 127-139.

見坊豪紀・市川孝・飛田良文・山崎誠・飯間浩明・塩田雄大 (編) (2022). 『三省堂国語辞典』(第八版) 三省堂.

宋戸彩花 (2014). 『若年層流行語「それな」の方言性と使用実態』関西大学文学部総合人文学科卒業論文.

高木智世・細田由利・森田笑 (2016). 『会話分析の基礎』ひつじ書房.

西阪仰 (2008 年 1 月). 『トランスクリプションのための記号』

<http://www.meijigakuin.ac.jp/~aug/transsym.htm> (最終閲覧日 2022 年 10 月 27 日)

平本毅 (2011). 「他者を「わかる」やり方にかんする会話分析的研究」『社会学評論』62(2), 153-171.

堀尾佳似 (2022). 『若者言葉の研究-SNS 時代の言語変化』九州大学出版会.

「「ゆうて」「それな」SNS で流行、関西弁が語源？」『日本経済新聞』2019 年 10 月 15 日 (電子版) .

Sacks, Harvey. (1970/1992). Lecture 4, Spring 1970. In Harvey Sacks, *Lectures on conversation*. Oxford, UK: Basil Blackwell.

Schegloff, Emanuel A. (1993). Reflections on Quantification in the Study of Conversation. *Research on Language and Social Interaction*, 26(1), 99-128.

謝辞

本研究は、日本学術振興会 科学研究費基金（若手研究）「共感的反応からみる日本語会話のモデル開発」（課題番号 19K13241：代表者 釜田友里江）の助成を受けたものである。